

には、海綿状を呈することが報告されている。従って、このような腫瘤に対しては、赤血球標識のプールのスキャンが有効なことが推測され、スキャン所見からも10~20分以降の血液プールのスキャンに特徴的所見がみられた。

24. 北日本地方における医療用アイソトープの利用状況

中島 智能 田辺 憲治

(社)日本アイソトープ協会・医薬品)

医療用アイソトープの使用は、年々増大しており、昭和53年度における使用金額は136億円余りに達している。そのうち約3分の2がin vitro使用で、3分の1がin vivo使用である。

53年度北日本地方における使用状況は、使用金額において105,350万円（青森13,490、岩手12,610、宮城13,950、秋田13,280、山形6,950、福島15,870、新潟29,200万円）であり、これは全体の7.71%に相当する。使用施設数は、それぞれ17, 16, 18, 18, 10, 20, 32で計131であり、全体の11.55%に相当する。

in vivo 検査を行なっている施設は、74カ所であり、多く使用されている核種は、 ^{99m}Tc 62, ^{131}I 診断用カプセル 58, ^{131}I 化合物 54, ^{67}Ga 43, ^{75}Se 42, ^{111}In 27, ^{198}Au 21, ^{131}I 治療用 NaI 16, ^{201}Tl 15, ^{51}Cr 14 施設である。

一方、in vitro 検査を行なっている施設は115カ所であり、 T_3 Uptake 86, Insulin 58, T_4 CP BA 48, CEA 40, Renin 39, T_4 RIA 38, T_3 RIA 36, AFP 33, TSH 28, UIBC 28, Hepatitis B 27, IgE 26で行なわれている。

医療用アイソトープによる放射性廃棄物集荷量は、アイソトープの使用の増大に伴って増えており、それに対する処理体制が遅れていることから問題のあるところであるが、北日本地方における集荷本数は、可燃物 (200 l) 20, 不燃物 (50 l) 382, スラリー (20 l) 1, フィルター (0.15m³) 18計421本であり、全体の11.3%を占めている。集荷を行なった施設42カ所であり、また、アイソトープ協会の廃棄物容器の貸与を受けているのは93事業所あり、貸与率は71%であり、全国平均よりやや高くなっている。